

清光学園だより

令和4年11月

第30号



園長

高橋 一栄



日頃より地域の皆様、関係機関・各企業・各種クラブの皆様におかれましては、施設運営に多大なご支援、ご協力を承りまして大変感謝申し上げます。

さて、新園舎での生活も4年目となりました。ホーム職員、児童も多少の移動が有り、気持ちも新たな環境にて1年間楽しく、仲良く、明るく元気に、また安心安全に過ごせるように見守り体制を強化していきたいと思っております。

近年、処遇困難な児童も多く、職員の負担も大きくなってきており、ホーム職員と専門職員（心理・個別・家庭支援）が情報共有しチームとして一体的に児童支援に当たり、職員が孤立したり、閉鎖的な気持ちを持たせないように最善の体制を取り組んでおります。

新型コロナウイルス感染症の影響で子どもたちが楽しみにしていた施設行事・地域交流行事等も中止せざるおえなくなり、寂し思いと貴重な社会体験・経験が出来なく、不利益な生活となっております。コロナ禍であるからこそ、今できる生活の工夫を職員一丸となって考え、実践しており、子どもたちもたくましく、思いやりのある児童へと成長しております。ご安心ください。

児童養護施設 〒028-3101 岩手県花巻市石鳥谷町好地第4地割80番地13

TEL 0198-45-5173 WEB <http://www.seikougakuen.jp>

清光学園

FAX 0198-45-5945 E-mail seikougakuen@seikougakuen.jp

基本理念・基本方針の紹介

法人理念 調和

施設の基本理念

「和の心と使命感をもって、たくましく思いやりのある児童を育成する」

施設の基本方針

- 1 子ども達の最善の利益を基本に養護を行います。
- 2 子どもたちの権利を守り、生きる力を育みます。
- 3 職員は一つとなり、子どもたちとともに歩み、ともに成長します。
- 4 子どもたちにとってより家庭的な養護に努めます。
- 5 地域における子育ての支援に努めます。



コロナ禍の過ごし方

新型コロナウイルスの影響で、自粛していた各学校などの行事も徐々に行われるようになってきております。今年は石鳥谷祭りも開催予定であり、子どもたちが生き生きと活躍する姿を多くみる機会が増えそうです。

男の子ホームでは運動会の代休を利用して、少人数でのホーム合同行事を行いました。岩手県立児童館いわて子どもの森へ出かけ、思う存分体を動かして遊ぶことができました。職員は子どもたちについていくのに必死でしたが、たくさんの笑顔に癒されております。



新人職員紹介

令和3年度から令和4年度に採用された職員を紹介します。

児童指導員 荒屋敷 涼

学園での毎日が学びの連続です。子どもたちにとって安心できる暖かい環境を作る一員となれるよう頑張ります。よろしくお願いします。



保育士 高橋 好美

11月からお世話になっております。たくさんご迷惑もおかけしますが、一生懸命頑張りますので、よろしくお願い致します。



保育士 藤根 百花

今年度からお世話になっております。子どもたちと沢山関わり、沢山学んでいきたいです。一生懸命頑張りますので、よろしくお願い致します。



保育士 富山 静空

子どもたちとの時間を大切に日々楽しく過ごしていきたいと思ひます。まだまだ未熟な所が多々ありますが、頑張りますので、これからよろしくお願い致します。



保育士 小向 郁也

今年度からオリオンホーム職員となりました。高校から学んできた福祉の知識を發揮し、先輩方の姿を見て成長していきたいと思ひます。よろしくお願い致します。



令和4年度事業計画

今年度は以下の3点を重点項目とし、施設運営の質の向上に取り組んでまいります。

(1) 自立支援およびアフターケアの強化

現在我が国の全高卒者のうち進学する割合は、専門学校を含めると7割を超えており、当学園においても高卒者の進学率が上昇している。しかし社会全体と比較すると進学を希望する児童がまだまだ少ないのが現状であり、進路については多様な選択肢があることを学ばせる必要がある。日々の生活の中で職員が高校生と進路について話し合う機会を持ち、その上で子どもたち自らが進路について真剣に考え、最善の進路を選択できるよう、情報提供やアドバイスを行う。進学する児童にあたってはアルバイトのために勉学やサークル活動などの学生としての経験をあきらめることの無いよう、自立支援給付型奨学金や自立支援資金貸付金などの制度を活用する。就職を希望する児童には社会人の先輩として職業観を伝えていくとともに、単に希望を受け入れるだけではなくその児童の適性を考慮したアドバイスを行い、共に考え決定に導いていく。

退園後はスムーズに一人暮らしを開始できるよう、自活訓練室を利用し疑似的なひとり暮らし体験を行うことにより、自立のための知識、技能を習得させる。また、民法が改正され4月より成年年齢が18歳に引き下げられるため、18歳で何ができるようになるのか、特に契約について講義を行い、消費者被害やネットトラブルを未然に防ぐことができる力を身につけさせていく。

アフターケアとしては電話連絡や家庭訪問を実施することにより、児童の情報を把握しながら計画的な支援に努めていく。必要に応じて関係機関と連携し、途切れない支援体制に努める。

(2) マニュアル等の抜本的な見直し

昨年度第三者評価を受審することにより、新たな課題が示された。マニュアル等においては毎年度見直しを実施しているが、今年度においては全項目において第三者評価での指摘、助言と照らし合わせながら、子どもの最善の利益の実現を目的としたマニュアル等の改正に取り組み、施設運営の質の向上を図る。マニュアル等の改正後は目標達成のためPDCAサイクルを効果的に回していく。

(3) 人材育成の充実

特別な支援が必要な入所児童が増加傾向にあり、施設全体の養育能力の向上が急務である。現在は人材育成指針に基づき個々の資質向上と施設全体の専門性の向上を目指しているが、より計画的かつ具体的に進めていくため、今年度人材育成計画を作成する。人材育成計画の完成は7月を目安とし、完成後は計画に基づき職歴等に合わせた個々の人材育成を効率的かつ体系的に進め、知識、技能の向上を図る。

令和3年度社会福祉法人青松会収支決算報告 (法人全体)

(単位:円)

貸借対照表

令和4年3月31日現在

資産の部				負債の部			
科目	当年度末	前年度末	増減	科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	75,668,474	64,639,685	11,028,789	流動負債	11,727,283	9,734,077	1,993,206
固定資産	494,994,419	503,660,443	△ 8,666,024	固定負債	120,294,087	126,419,962	△ 6,125,875
基本財産	368,239,998	385,919,072	△ 17,679,074				0
その他の固定資産	126,754,421	117,741,371	9,013,050	負債の部合計	132,021,370	136,154,039	△ 4,132,669
			0				0
			0	純資産の部			
			0	基本金	1,000,000	1,000,000	0
			0	0 国庫補助金等特別積立金	248,666,476	260,916,309	△ 12,249,833
			0	0 その他の積立金	70,268,620	60,268,620	10,000,000
			0	0 次期繰越活動増減差額	118,706,427	109,961,160	8,745,267
			0	0 (うち当期活動増減差額)	18,745,267	△ 59,784,815	78,530,082
			0				0
			0	純資産の部合計	438,641,523	432,148,089	6,495,434
			0				0
資産の部合計	570,662,893	568,300,128	2,362,765	負債及び純資産の部合計	570,662,893	568,300,128	2,362,765
資金収支計算書				事業活動計算書			
) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日				(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日			
科目	予算	決算	差異	科目	当年度決算	前年度決算	増減
事業活動による収支				サービス活動増減の部			
児童福祉事業収入	262,077,500	262,078,295	△ 795	児童福祉事業収益	262,078,295	262,992,066	△ 913,771
経常経費寄付金収入	5,381,000	5,381,880	△ 880	0 その他の収益	5,381,880	0	5,381,880
受取利息配当金収入	1,600	1,662	△ 62	△ 62 経常経費寄付金収益	0	3,125,817	△ 3,125,817
その他の収入	1,962,000	1,990,036	△ 28,036				0
事業活動収入計	269,422,100	269,451,873	△ 29,773	サービス活動収益計	267,460,175	266,117,883	1,342,292
人件費支出	186,123,000	186,114,478	8,522	人件費	187,808,798	182,797,049	5,011,749
事業費支出	43,639,000	43,461,278	177,722	事業費	43,213,478	42,854,863	358,615
事務費支出	7,972,000	7,601,613	370,387	事務費	7,601,613	6,375,810	1,225,803
支払利息支出	110,000	97,663	12,337	減価償却費	24,144,685	24,118,763	25,922
その他の支出	0	0	0	0 国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 12,249,833	△ 21,621,084	9,371,251
事業活動支出計	237,844,000	237,275,032	568,968				0
事業活動資金収支差額	31,578,100	32,176,841	△ 598,741				0
施設整備等による収支				サービス活動費用計	250,518,741	234,525,401	15,993,340
施設整備等寄付金収入	0	0	0	サービス活動増減差額	16,941,434	31,592,482	△ 14,651,048
				サービス活動外増減の部			
施設整備等収入計	0	0	0	0 受取利息配当金収益	1,662	7,485	△ 5,823
設備資金借入金元金償還支出	6,100,000	6,036,000	64,000	0 その他のサービス活動外収益	1,990,036	688,416	1,301,620
固定資産取得支出	5,424,000	5,410,938	13,062	サービス活動外収益計	1,991,698	695,901	1,295,797
固定資産売却・廃棄支出	0	0	0	0 支払利息	97,663	103,258	△ 5,595
				その他のサービス活動外費用	247,800	333,600	△ 85,800
施設整備等支出計	11,524,000	11,446,938	77,062	サービス活動外費用計	345,463	436,858	△ 91,395
施設整備等資金収支差額	△ 11,524,000	△ 11,446,938	△ 77,062	サービス活動外増減差額	1,646,235	259,043	1,387,192
その他の活動による収支				経常増減差額	18,587,669	31,851,525	△ 13,263,856
積立資産取崩収入	2,250,000	2,250,510	△ 510	特別増減の部			
				0 施設整備等補助金収益	0	0	0
				0 施設整備等寄付金収益	0	0	0
その他の活動収入計	2,250,000	2,250,510	△ 510	0 拠点区分間繰入金収益	0	0	0
積立資産支出	12,399,000	12,398,225	775	0 固定資産受贈額	157,600	0	157,600
拠点区分間繰入金支出	0	0	0	0 その他の特別収益	0	0	0
その他の活動による支出	0	0	0	特別収益計	157,600	0	157,600
その他の活動支出計	12,399,000	12,398,225	775	0 固定資産売却損・処分損	2	91,636,340	△ 91,636,338
その他の活動資金収支差額	△ 10,149,000	△ 10,147,715	△ 1,285	0 国庫補助金等特別積立金積立額	0	0	0
予備費支出	0	0	0	0 拠点区分間繰入金費用	0	0	0
当期資金収支差額合計	9,905,100	10,582,188	△ 677,088	0 拠点区分間固定資産移管費用	0	0	0
前期末支払資金残高	62,751,608	62,751,608	0	0 その他の特別損失	0	0	0
当期末支払資金残高	72,656,708	73,333,796	△ 677,088	特別費用計	2	91,636,340	△ 91,636,338
				特別増減差額	157,598	△ 91,636,340	91,793,938
				当期活動増減差額	18,745,267	△ 59,784,815	78,530,082
				繰越差額増減差額の部			
				前期繰越活動増減差額	109,961,160	169,745,975	△ 59,784,815
				当期末繰越活動増減差額	128,706,427	109,961,160	18,745,267
				その他の積立金取崩額	0	10,000,000	△ 10,000,000
				その他の積立金積立額	10,000,000	10,000,000	0
				次期繰越活動増減差額	118,706,427	109,961,160	8,745,267